

『思い思いの若者たち』

## 「努力は報われないものなのか」

法人理事 布袋 太三

先の北京オリンピックでの話だが、羽生結弦が四回転半ジャンプを失敗した直後のインタビューで「努力は報われないんだなあ」と呟いて、一瞬涙した場面があった。

彼ほどのアスリートなら「努力は報われないこともあるんですね……」とでも苦笑まじりに言うべきだったんだろうが、さすがの羽生もあまりの口惜しさに本音がこぼれだしたのだろう。

しかし、この羽生の呟きはその後静かな波紋を広げていった。心療内科医の海原純子は連載する毎日新聞のコラムで「この言葉は胸に響いた」と吐露し、自らの実体験に思いを馳せつつ心からの共感の言葉を綴った。

また、そもそものこのインタビューであった松岡修造は自身も声を詰まらせながら「羽生にあんな言葉を吐かせてしまった」と傍目も憚らず長嘆していた。

そうなんだ。人は誰もが努力しても報われなかったつらい経験を持つ。だから「ああ、努力なんて報われないんだ」と思わず何かに当たり散らすように発した羽生の言葉は、生身の人間の叫びとして人々の琴線に触れたのだ。

ところで、私の旧友の孫娘はこの羽生のデビュー以来の熱烈な大ファンなんだが、実は彼女は今春二度目の大学入試に挑戦した。しかし、結果は第一志望の「狭き門」に再び屈してしまった。

都会で予備校通いの苛酷な日々を過ごしてきた彼女にとって、この結果はずいぶんショックだったにちがいない。おそらくは口惜しさに唇

を噛み「努力なんて報われないものなんだ」と思い、人知れず何度も何度も天を仰いだことだろう。

ただ数日後、彼女は「私は、今年は自分でもよくがんばったと実感しているんだ」と、この間の自分の努力の質や量にほぼ納得している気持ちを、淡々と私の旧友に語ったそうだ。確かに結果は無念だったが、費やした努力の積み重ねは必ずや今後生きてくる。この失敗を糧に彼女は一回りも二回りも成長するだろうと、旧友は胸を撫で下ろしていた。

それに今回、彼女はシラバスの似通った M 大へは合格していたので、彼女の念願の日本文学研究のフィールドに立つことはすでに叶っていた。心機一転、新しいステージにもう彼女は踏み出し始めていたようだ。

ともあれ、私はやはりこの世は運と努力なのだと思ながら思っている。努力だけでは現実にはなかなかこじ開けられない。運というか、何か人知を超えた助けがあってやっと、事態は切り開かれるのだと思えてならない。

さて、振り返ってこの春、私たちの周辺の悩める《若者たち》は運と努力でなんとか夢を手繰り寄せただろうか。私は今春ばかりはやや深く思いを込めて、青年たちの動向に気づかしている。

令和 4 年 4 月



## 国道 168 号美化協議会と ゴミの仕分け作業について



熊野川沿いに走る国道 168 号線。本宮から新宮までを繋ぐ道で、観光ルートはもちろん、田辺市からも中辺路を抜けて新宮までのルートとして交通量が多い道路です。

その影響もあり、この 168 号線には空きペットボトル、空き缶、空きビン、弁当殻などのゴミの不法投棄が以前から問題となっていました。

こうした状況もあり、官民協働で「国道 168 号美化協議会」を立ち上げ、道路沿いの 5ヶ所に公衆ゴミ箱を設置し、不法投棄への対策に取り組むことになりました。

国道 168 号美化協議会は、協議会の構成団体に加え、東牟婁地域の約 60 社に上る賛助会員からの会費によってゴミの回収作業と仕分け作業を福祉事業所に委託することになり、あづまプラッツでもペットボトル、空きビンの洗浄・仕分け作業を、利用者の社会体験作業として請け負うことになりました。

回収・仕分け作業に掛かる経費については、協議会への賛助会費から賄われることになっています。

7月から始めたこの作業、厳しい日差しの中、ペットボトルのラベルをはがし、洗浄し、漬す作業は大変過酷な作業です（汗）

8月に入り、観光シーズンに入るとゴミの量も増え、夏場のゴミ特有の強烈な匂いの中でも汗を流しながらも黙々と作業してくれるメンバーには本当に頭が上がりません。

まだまだ暑い日が続くので熱中症には十分気を付けながら、あづまプラッツのスタッフも一緒になって汗を流したいと思います。

(ひなたの森・あづまプラッツ施設長 南 芳樹)

